

文献^{*1}はこの分野で最も広く読まれている基礎文献であり，大学院に入学するまでに必読である^{*2}．特に平安時代の文化との関わり^{*3}，英語と日本語の言語学的関連からの考察^{*4}は興味深い．また，文献^{*5}は新たな分野を拓いた最初の論文であり，当初の問題意識を知るうえで重要である．

参考文献

B. フー, Q. バズ, C. クー. *foobar*の誕生 保毛太郎 訳. 民明書房, 1995.

Foo, Bar, Qux Baz, and Corge Quux. “The birth of foobar.” *J. Foobar* 255 (1990): 19–454.

保毛太郎. “ほげと千年紀—foobar の視点から—.” ほげ学会論文誌 100 (2000): 20–42.

保毛太郎, 比世次郎, 布我三郎. “ほげとびよの意味論.” ほげ学会論文誌 101 (2001): 53–58.

*1. 保毛太郎, “ほげと千年紀—foobar の視点から—,” ほげ学会論文誌 100 (2000): 20–42; Bar Foo, Qux Baz, and Corge Quux, “The birth of foobar,” *J. Foobar* 255 (1990): 19–454.

*2. Foo, Baz, and Quux, “The birth of foobar” は長大な論文であり, 和訳が単行本で出ている: B. フー, Q. バズ, C. クー, *foobar*の誕生, 保毛太郎 訳 (民明書房, 1995).

*3. 保毛, “ほげと千年紀—foobar の視点から—,” 25.

*4. 同書, 30–35.

*5. 保毛太郎, 比世次郎, 布我三郎, “ほげとびよの意味論,” ほげ学会論文誌 101 (2001): 53–58.